

夢幻の森

作品イメージ (テキスト)

天から降ろされた無数の糸を無心に身体に結びつけてみると、
宇宙の森羅万象に繋がる感覚が静かに湧きおこる。
こころは震え出し、あらゆる存在との交信に導かれる。
糸によって結ばれた夢幻の世界がうつつへと滲みわたってゆく。

福田 笑子 (ふくだ しょうこ)

大阪芸術大学大学院 博士課程前期芸術制作専攻工芸 (テキスタイル染織) 在籍

夢幻の森 「紐衣 - 植物の精霊が宿る装身具」
素材 葛、亜麻、苧麻、大麻、サイザル麻、ジュート麻、ラフィア、科、綿
技法 結ぶ、絡める、巻く、縫う
制作年度 2011-2012
サイズ 各約 200-500 (h)×4 (w)×3 (d)cm

紐衣 (ちゅうい) は、英語 **ligate** (くくる) が名詞になった **ligature** の訳語で、腰に紐や細いベルト状のものを巻き結んだ“衣”であり、そもそも生霊たちを体内に封じ込めておく呪具でした。

私たちは植物の恩恵を受けて暮らしています。また植物には再生能力があります。日本では「八百万の神」の信仰がありますが、私自身、植物に神々しさすら感じています。

本展では、植物の繊維を素材に用いて、おもに編組法により、有機的な曲線のデザインの装身具を展示します。とくに螺旋状の構造は、生命を感じさせ、装身具に命が宿るような印象を与えます。デザインに、単なる装身具以上に身につける護符としての機能性をも追求しました。

市川 衛 (いちかわ まもる)

大阪芸術大学准教授 インタラクティブアートを中心にジャンルを超えたマルチな芸術活動

システム iPad 6 台の映像音声を **wifi** で **Apple TV** に送信して 6 台プロジェクターで投影
サウンド ノイズを高速フーリエ変換して得られる音響を **iPad** で生成

昨年に福田さんが展示していた紐衣の作品と出会い、自分が志向している世界観との共通点の多さを感じ取り、実験ドームで大規模なインスタレーションによるコラボレーションをしようと決めました。

宇宙やあらゆる生命と繋がるような世界観を体感出来るインスタレーションとするため、会場は暗くし鑑賞者が **LED** ライトで福田作品を照らすという鑑賞形式を採用しました。夢幻の森として広がる糸を鑑賞者自らが発見してゆくプロセスや、ライトを照らすことで映し出される陰影もまた作品全体の要素となってゆきます。

使用しているシステムの壮大さとは裏腹に、天に映される映像とかすかに響くサウンドは作品全体を支えるバックグラウンドとして、あえて控えめなデザインを心がけました。

作品自体は直接的に反応しないが、鑑賞者の主体的な行為や行動を創造的に引き出すインタラクティブ・インスタレーションと位置づけられます。